

芸術科（書道）学習指導案

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和3年11月1日（月）第2時限
- 3 学 級 2 年次 （4 名）
- 4 使用教科書 書道 I 教育図書
- 5 単元名 楷書の古典に学ぼう（孔子廟堂碑）
- 6 単元設定の理由

本校では、芸術は選択した科目を2年次で学ぶ。書道塾に通っていた生徒はほとんどいないだけに、「書道」を初めて学び面白いと思えるように、ICTやタブレット端末を駆使し、授業を工夫している。楷書は、今日的には最も基本的な書体であり、用筆法、運筆法、結構法において中心をなすものである。本単元では、楷書の古典の臨書や鑑賞を通して、さまざまな楷書の書風を知るとともに、基本的な筆使いを身に付け、書道についての理解を深め、生涯にわたり書を愛好する心情を育てたいと思い本単元を設定した。

7 単元の目標

- ・楷書の特徴を踏まえた上で、孔子廟堂碑の書風に関心を持ち、主体的・意欲的に臨書に取り組もうとする。（書への関心・意欲・態度）
- ・代表的な古典に触れ、臨書や鑑賞により、時代・風土・人などによる書風の違いを理解する。（書表現の構想と工夫）
- ・孔子廟堂碑の古典の美について理解し、その表現技術を体得し、表現能力を高める。（創造的な書表現の技能）
- ・自他の作品の鑑賞を通して、そのよさや美しさを味わい自分の活動に生かす。（鑑賞の能力）

8 取り上げる言語活動

- ・自己の執筆法を映像で確認し、気が付いたことを発言する。

9 単元の評価規準

- A 楷書の特徴を踏まえた上で、孔子廟堂碑の書風に関心を持ち、主体的・意欲的に臨書に取り組もうとしている。（書への関心・意欲・態度）
- B 初唐の三大家の代表作各々の整齊美を味わい、三者の書風の違いを理解している。（書表現の構想と工夫）
- C 孔子廟堂碑の温雅な特徴に関心を持ち、臨書を通して楷書の基本点画を体得している。（創造的な書表現の技能）
- D 自他の作品の鑑賞を通して、そのよさや美しさを味わい自分の活動に生かしている。（鑑賞の能力）

10 指導計画

次	学 習 活 動	評価の規準と方法
1次 1時間	古典の特徴と書風を比較する。タブレット端末を用いさまざまな古典作品を映像で見る。書風を学び、基本用筆を半紙に練習する。生徒が練習している様子を、録画する。	評価規準A・B 「行動の観察」
2次 2時間	「孔子廟堂碑」の基本点画を電子黒板に提示する。一人一台のタブレット端末を用い、前次に録画した映像を見て、自己の姿勢・執筆方を確認する。気づいたことを発表する。「孔子廟堂碑」を臨書する。○本時1／2時間目	評価規準B・C 「行動の観察」 発言 提出作品

11 本時の目標と評価規準

自己の姿勢・執筆方を確認する。気づいたことを発表し、臨書に生かす。

12 本時の展開

時 間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体的評価規準と実際	評価方法
導 入 3分	本時の目標の説明を聞く。	・目標が徹底できるよう目標を板書する。		
展 開 32分	「孔子廟堂碑」の基本点画を理解する。	・電子黒板に基本点画を提示し、ポイントを理解させる。	横画・右払い・左払いの特徴を理解している。	「行動の観察」
	自己の執筆の様子を映像で確認する。	・タブレット端末を用い、前時に録画した映像を見る。正しい姿勢・筆の持ち方を確認させる。		「行動の観察」
	自己の執筆法の気づいたところを、発表する。 楷書の特徴を理解し、「大道」を臨書する。	・良いところをさらに伸ばすことができるよう配慮する。 発言について、適宜解説する。 ・「大道」を半紙に臨書させる。 ・時間を決め、清書作品を1枚提出させる。	姿勢・執筆法、用筆・運筆法など基本的な技能を理解している。 机間巡視しながら個別に添削し指導していく。	「行動の観察」 提出物
まとめ 5分	本時の学習内容を確認する。	・次回、作品の鑑賞を行うことを指示する。 ・片付けをさせる。		